

～ 株式投資で勝つ方法～ - 経済動向編 -

livedoor VS フジテレビに注目！（全 13 回）

2005/06/24 太田寿一

第 10 回 IT界の“巨人”の登場

3月24日、東京高裁はライブドアが申請していた“ニッポン放送株の新株発行差し止め”について、引き続き地裁の決定を支持し、差し止めを行う仮処分を決定しました。その結果、ライブドアによるニッポン放送支配が一気に現実味を帯びてきました。もちろんニッポン放送だけでなく、ニッポン放送が筆頭株主を務めるフジテレビの間接支配も視野に入ってきたのです。

しかし翌日、驚くべきことが起きました。ニッポン放送は所有するフジテレビ株(22.51%)の8.63%を付き合いのある大和証券SMB Cに、そして残る13.88%をソフトバンクインベストメント(SBI)、ソフトバンクの子会社(正確には孫会社)に貸し出したのです。これによりニッポン放送が持つフジテレビへの影響力は無くなり、ライブドアが画策していた間接支配は完全に消滅したのです。しかし問題は、ソフトバンクに貸し出した、ということなのです。

ソフトバンクといえば日本のITを語るには外せないほどの老舗ですが、何よりも1996年に世界のメディア王であるルパート・マードック氏と組んでテレビ朝日を買収しようとしたいわば前科犯。よりによってそこに渡しちゃうのかよ...と誰もが思いました。SBIの北尾吉孝CEO(最高経営責任者、いわゆる社長か会長)は「今回の件は(ソフトバンク社長の)孫正義さんとはまったく相談していない」と強調していましたが...。また、これによりSBIがフジテレビの筆頭株主に躍り出ましたが、北尾CEOは「フジテレビの経営に関与するつもりはない」と断言しました。

また、ライブドアが掲げる「ネットとメディアの融合」に反発するように、フジテレビ・ニッポン放送・SBIの3社がブロードバンド関連事業に投資を行う『SBIビービー・メディア投資事業有限責任組合』の設立を発表しました。司法の判断が下されてもなおフジテレビはライブドアと同じ舟に乗ることにNo!を突きつけたのです。この後北尾CEOはM&Aコンサルティング(村上ファンド)の村上世彰氏と会談を行ったり、堀江社長と話し合いを行おうとしたり、自ら両社の仲介役をかって出ようとするなど、精力的に動き回りました。

これらのことを受けて、堀江社長を除くライブドア社内では、「撤退」が囁かれるようになりまし。株価も買収が報道されて以来下がる一方で、100円以上も下がったからです。水面下では既に熊谷取締役を中心にフジテレビと和解交渉が進められていました。そして4月18日、ついに決着の日が訪れたのです。

参考 @Money Yomiuri On-Line <http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/special/84/>

蛇足：先日証券会社に口座を開きましたが、何と開いた会社(イトレード証券)はSBIが支配する会社でした。北尾さん(同社の会長)の挨拶文があってビックリしましたが、まさかイトレードを持っていたとは...。ちなみに僕がイトレード証券を選んだ理由はネットでの手数料が安いからで、50万円までの取引なら700円、最高でも1600円という安さ！やはり証券会社は手数料が低いところを選びましょう(ちなみに国内最安値は、センチュリー証券の472円ですが)。